

スーパーマーケット景気動向調査

2024年6月調査結果（5月実績）
（2024年6月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

6月調査（5月実績）結果概況 景況感、経営動向とも小幅に下落

5月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から-0.8の44.6、見通し判断が前月から-1.5の41.9と、小幅な下落となった。

経営動向調査では、売上高DIが小幅に下落、収益DIは前月水準で推移した。生鮮品仕入原価DIと食品仕入原価DIは引き続き高水準を維持、客単価DIは小幅に下落、来客数DIは小幅ながらプラスとなった。

カテゴリー動向調査では、為替影響で輸入肉が高騰、牛肉の需要が低迷する畜産DIは低位継続、プラス圏での推移を続けてきた水産DIが徐々にマイナス圏となった。相場が高止まりする青果、行楽需要も堅調な惣菜は、高いプラス圏を維持している。（最終ページに詳細掲載）

景況感調査では、現状判断、見通し判断共に、前月に続いて低位での推移となり、先行きへの不安を示す結果となっている。（長期傾向はP11参照）

これまで値上げによる一品単価の上昇に対し、買上点数を維持することで売上高を伸ばさせてきた。現在も輸入品の価格上昇は続いているが、加工食品では値上げの影響が一巡し、単価上昇の勢いは失われつつある。今後は客数や買上点数の動向が、ダイレクトに販売動向に反映される可能性が高い。一方で、消費者の間では節約志向がより一層強まっており、この6月に実施された定額減税も、その効果は実感しにくく経済効果の期待は薄いと言えよう。スーパーマーケットにとって、買上点数の反転攻勢は容易ではない。6月からは電気・ガス料金の補助も終了、コスト上昇と競争激化、節約志向の中で、どのように売上や利益を確保していくか、一層の生産性向上、差別化戦略、地域コミュニティ連携など多方面での変革が求められる。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：44.6 (-0.8) 前月：45.4	消費者購買意欲DI 当月：44.4 (+0.2)	周辺地域 競合状況DI 当月：45.6 (+1.0)	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：47.4 (+0.0)
--	------------------------------------	--------------------------------------	--

見通し判断

景気判断DI 当月：41.9 (-1.5) 前月：43.4	消費者購買意欲DI 当月：43.5 (-0.6)	周辺地域 競合状況DI 当月：43.0 (-0.4)	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：46.4 (-0.0)
--	------------------------------------	--------------------------------------	--

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：0.0 (-1.2) 前月：1.2	客単価DI 当月：5.9 (-2.6) 前月：8.5	来客数DI 当月：-4.2 (+1.2)	
収益DI 当月：-1.8 (+0.1) 前月：-1.9	販売価格DI 当月：19.6 (-1.7)	生鮮品仕入原価DI 当月：19.7 (-0.4)	食品仕入原価DI 当月：18.8 (-2.2)

カテゴリー動向

青果DI 当月：10.6 (+0.5) 前月：10.1	水産DI 当月：-4.5 (-3.8) 前月：-0.7	畜産DI 当月：-11.5 (+4.2)	
惣菜DI 当月：7.0 (+0.3) 前月：6.7	日配DI 当月：-4.2 (-0.6) 前月：-3.6	一般食品DI 当月：2.7 (+1.9) 前月：0.8	非食品DI 当月：-9.6 (-6.0) 前月：-3.6

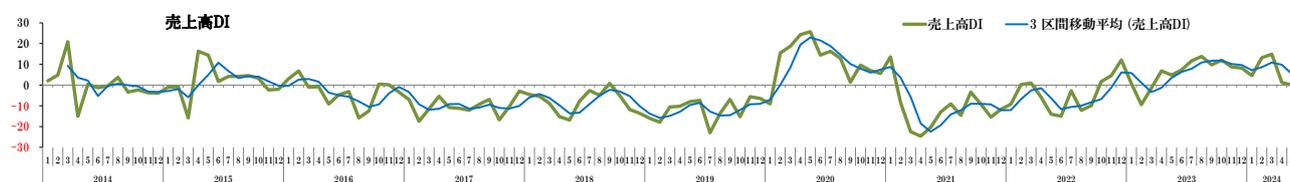
※DI値は前年同月との比較／（）内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

前月からわずかに下落、値上げ効果一巡か

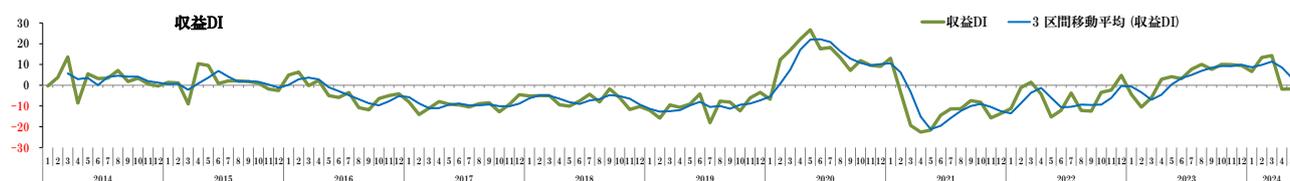
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	3.7	30.2	29.6	30.2	6.2	1.2
売上高 (当月)	2.6	30.7	36.6	24.2	5.9	-0.0



2. 収益DI

前月から変化なく、小幅マイナスで推移

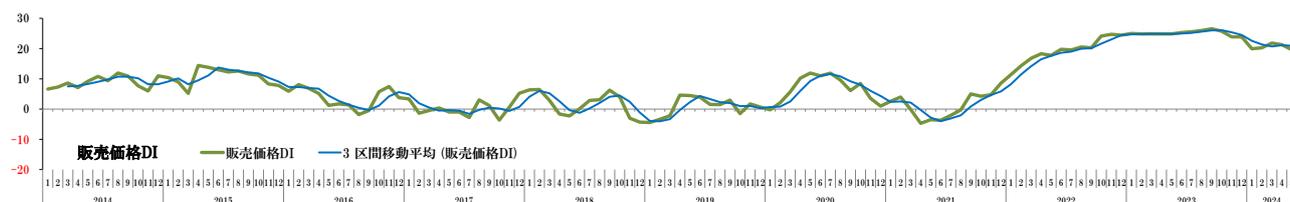
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	8.1	30.0	29.4	26.3	6.3	-1.9
収益 (当月)	4.0	33.1	34.4	23.2	5.3	-1.8



3. 販売価格DI

前月から小幅な下落も高水準での推移

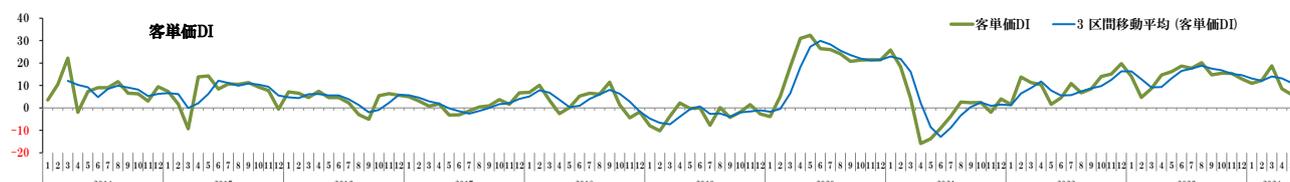
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	0.6	22.8	67.3	9.3	21.3
販売価格 (当月)	0.0	2.6	22.2	69.3	5.9	19.6



4. 客単価DI

前月から小幅な下落も、プラス圏で推移

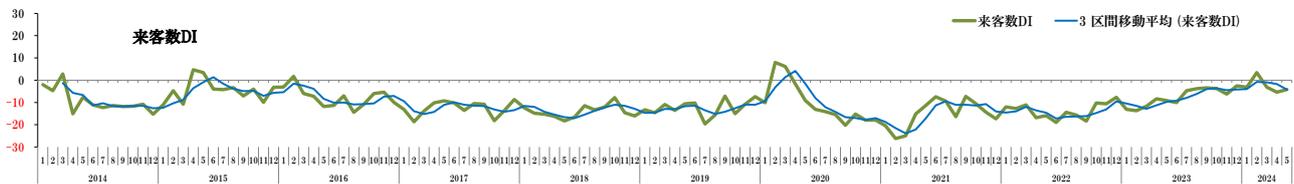
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.6	17.3	33.3	45.1	3.7	8.5
客単価 (当月)	1.3	16.8	40.3	40.3	1.3	5.9



5. 来客数 DI

前月から小幅に上昇もマイナス圏で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	6.2	37.0	32.1	21.6	3.1	-5.4
来客数 (当月)	4.7	33.3	38.0	22.0	2.0	-4.2



6. 生鮮仕入原価 DI

前月水準で推移し、二桁プラス水準続く

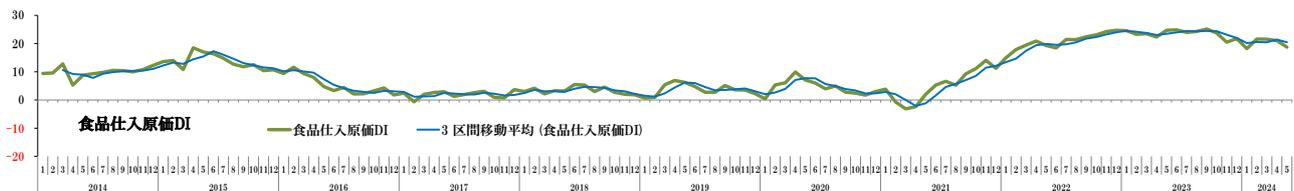
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.0	3.8	22.6	62.9	10.7	20.1
生鮮仕入原価 (当月)	0.7	3.3	22.0	64.7	9.3	19.7



7. 食品仕入原価 DI

前月から小幅に下落も、37か月連続プラス圏で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	0.0	1.9	23.4	63.3	11.4	21.0
食品仕入原価 (当月)	0.0	6.1	20.9	64.9	8.1	18.8

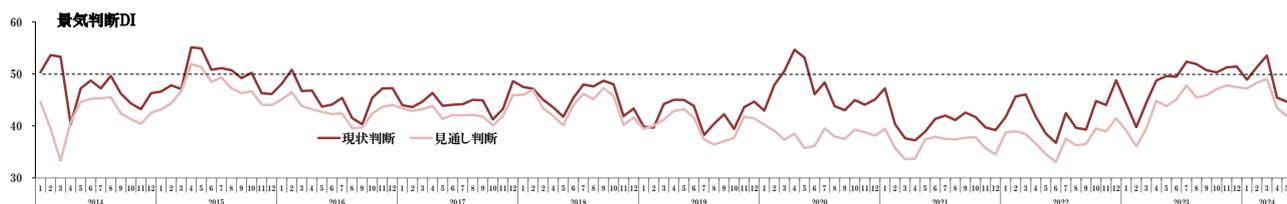


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断、見通し判断共に小幅に悪化

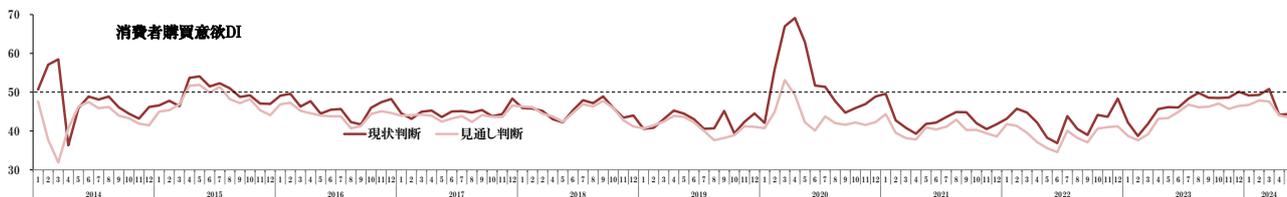
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	1.2	26.2	62.8	9.1	0.6	45.4
【現状】景況判断 (当月)	1.9	26.0	64.9	5.8	1.3	44.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	0.6	32.9	59.1	6.7	0.6	43.4
【見通し】景況判断 (当月)	3.2	32.5	59.1	3.9	1.3	41.9



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に前月水準で推移

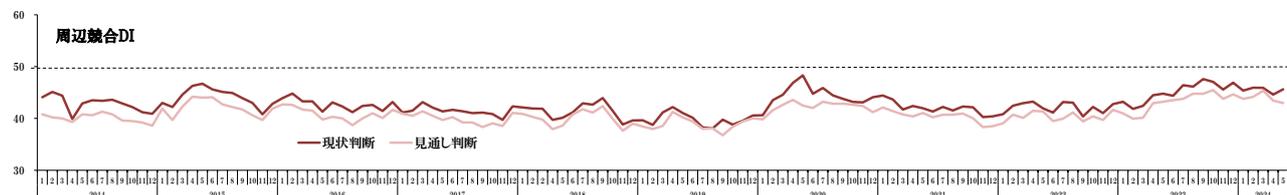
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.2	29.9	60.4	7.9	0.6	44.2
【現状】購買意欲 (当月)	0.7	27.5	66.7	3.9	1.3	44.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.6	30.5	61.6	6.7	0.6	44.1
【見通し】購買意欲 (当月)	0.7	31.4	62.7	3.9	1.3	43.5



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共にほぼ前月水準で推移

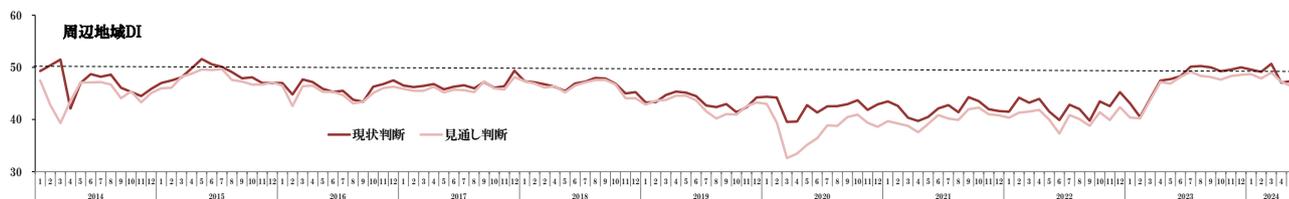
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.1	20.4	71.6	4.9	0.0	44.6
【現状】競合状況 (当月)	1.9	18.2	76.0	3.2	0.6	45.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	3.7	23.2	68.9	4.3	0.0	43.4
【見通し】競合状況 (当月)	3.3	25.5	68.0	2.6	0.7	43.0



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共にほぼ前月水準で推移

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.6	16.7	77.2	4.9	0.6	47.1
【現状】地域景気 (当月)	0.0	15.6	79.2	5.2	0.0	47.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.6	16.6	76.7	5.5	0.6	47.2
【見通し】地域景気 (当月)	0.0	19.6	75.2	5.2	0.0	46.4

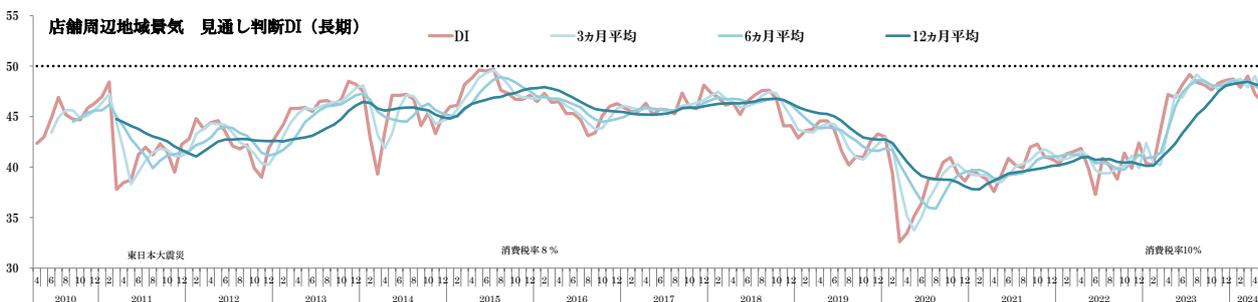
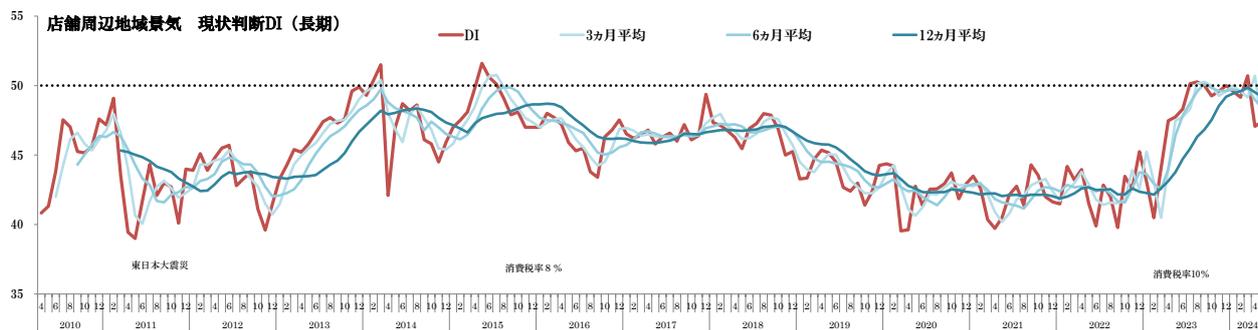


・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。

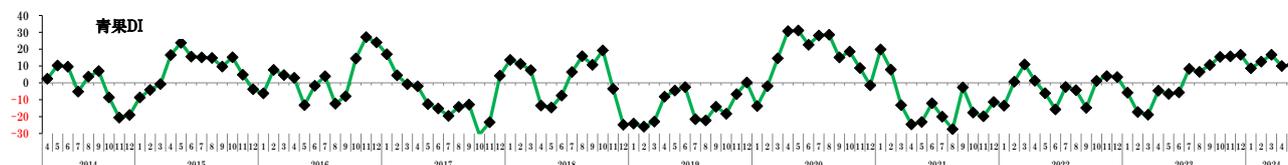
20年2月に大幅に悪化したのが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化した感染が再拡大した7月以降には一旦大幅な改善をみせた。その後23年3月以降は改善が続き、7月には判断の分かれ目である50を突破、その後も高水準を維持したものの24年4月に一転して大きく悪化している。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：10.6（好調）

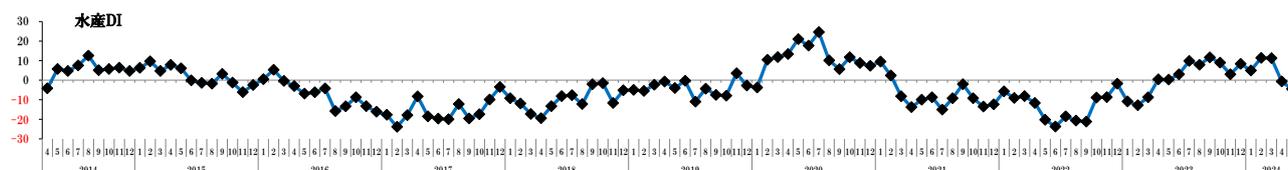
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	1.3	18.8	29.2	39.6	11.0	10.1
青果（当月）	2.0	15.5	29.1	44.6	8.8	10.6



引き続き相場が高値傾向で推移し、一品単価の上昇により好調となった。キャベツや白菜などの葉物類は特に相場が高く単価を押し上げた一方、トマトは動きが鈍かった。高めの気温の影響で、サラダ関連野菜や小松菜やチンゲン菜など、炒め物用の動きがよかったとのコメントがみられた。果実は国産、輸入共に相場高傾向が続くなか、柑橘類は苦戦傾向も、その他は買上点数の増減に店舗差が大きかった。メロンやスイカなどのカットフルーツも同様に高値で、好不調の判断がわかれている。

2. 水産DI：-4.5（やや不調）

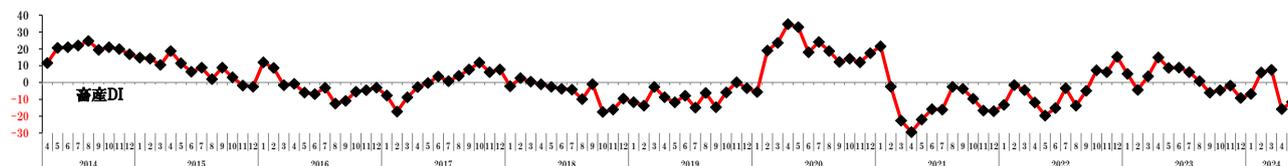
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	8.5	28.1	28.1	28.1	7.2	-0.7
水産（当月）	8.7	32.7	30.7	24.0	4.0	-4.5



昨年から好調を維持してきたが、前月から不調とする声が多くなっている。こどもの日、母の日向け商材は好調に推移した。気温にも恵まれ、刺身類は価格が安定しているマグロを中心に、販売しやすい価格で好調となった店舗が多い。価格が高騰している干物類は、ちりめん類の不漁で販売数量が減少し、不調になった。もずくなどの海藻類は好調、うなぎ類は好不調の判断がわかれている。

3. 畜産DI：-11.5（不調）

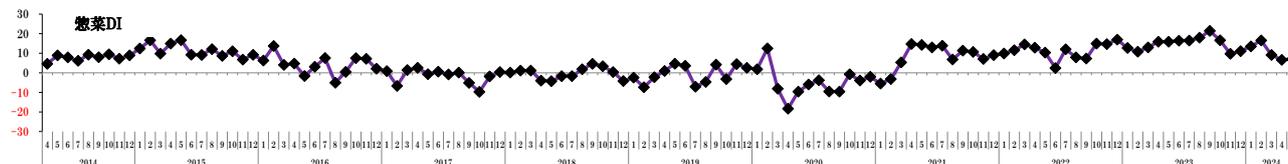
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	15.6	48.1	22.7	11.0	2.6	-15.7
畜産（当月）	12.0	42.7	28.0	14.0	3.3	-11.5



前月より小幅に改善も不調が続く。値ごろ感のある鶏肉の需要シフトが強まり、単価が下落。輸入肉の価格が高騰していることで、全般的に数量が伸び悩んだ。牛肉は引き続き低迷が続く、GW 時期の BBQ 用は伸び悩んだが、焼肉やステーキなどは動きがよかったという声も。豚肉は小間切れやひき肉など、値ごろな商材に需要が集中、鶏肉は販売が伸長している。加工肉は値上げの影響で不振とする店舗が多い。

4. 惣菜DI：7.0（やや好調）

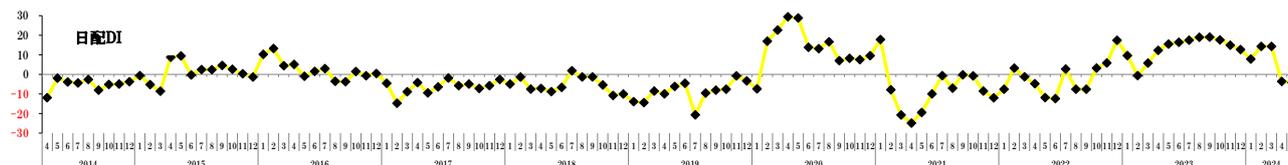
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	1.9	16.9	40.3	34.4	6.5	6.7
惣菜（当月）	3.3	12.0	44.0	34.7	6.0	7.0



GW 時期は、天候に恵まれ行楽需要が高まった地域を中心に好調に推移した。引き続き単価が上昇している米飯類、おかず類が好調を牽引している。こどもの日、母の日に合わせた商品の動きは良かった。青果相場が高値で推移したため、和惣菜やサラダ類が好調に推移、寿司関連は伸び悩んだ店舗が多い。気温の上昇に合わせ、涼味系麺類や夏を意識した惣菜が好調とのコメントも多くみられた。

5. 日配DI：-4.2（やや不調）

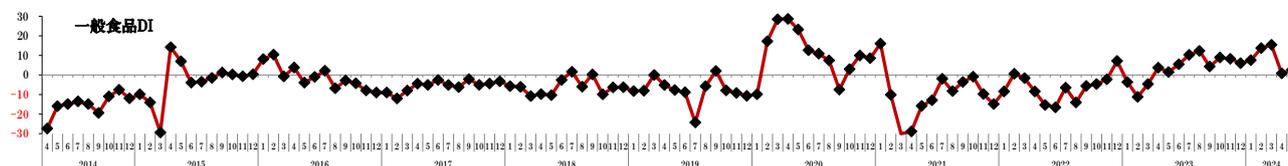
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	6.5	30.5	38.3	20.1	4.5	-3.6
日配（当月）	6.7	31.3	37.3	21.3	3.3	-4.2



値上げの影響が一巡してきたとのコメントが増えている。点数が維持できている牛乳やチーズなど乳製品、パン類は引き続き堅調に推移した。好調が続いている冷凍食品は伸び率鈍化も前年並みを確保した店舗が多いが、納豆や漬物などの和日配は点数減の影響が大きい。洋日配では引き続きメーカーのシステムトラブルによる影響もみられている。前年との価格差の大きい鶏卵は、単価が下落し売上が伸び悩んだ。

6. 一般食品：2.7（やや好調）

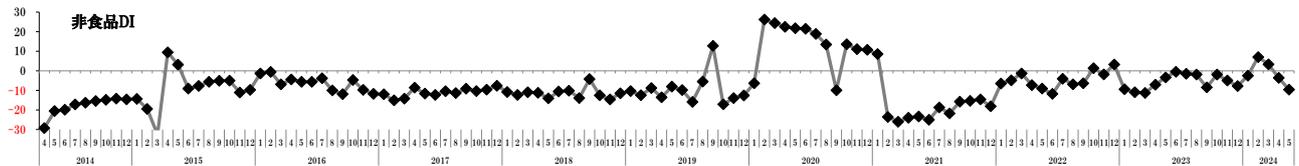
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	5.8	23.1	38.5	27.6	5.1	0.8
一般食品（当月）	4.0	20.0	42.7	28.0	5.3	2.7



値上げの影響が一巡しつつあるなかで、なんとか前年並みを確保したという回答が多い。引き続き米類は単価上昇に加え、節約志向の高まりも後押しし、大幅に伸長。調味料などは再値上げの影響で単価増が続き、点数が維持できている店舗では売上を確保した。気温が高めに推移した地域が多く、飲料が好調、行楽需要により、ビール類や菓子類も好調となった。一方でインスタント麺の動きは良いが、前月好調だったそうめんなど涼味麺は動きが悪いとのコメントが多い。オリーブオイルの品薄の影響を受けている店舗もみられた。

7. 非食品DI：-9.6（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	10.2	26.5	34.0	25.9	3.4	-3.6
非食品（当月）	9.6	37.0	37.0	15.1	1.4	-9.6



マスクやハンドソープ、除菌関連など衛生用品の需要低下傾向が続く。単価が上昇したトイレトペーパー・キッチンペーパーなど紙製品は引き続き好調に推移した店舗が多い。家庭用洗剤、ラップやホイルなどは、単価上昇後も点数を維持した。また、気温上昇により虫ケア用品や防虫剤の動きがよかった。競合店との価格競争の厳しさを指摘するコメントが多くみられた。

カテゴリ別DIによる好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2024年6月調査（5月実績）キーワードTOP3

1. 値上げの影響一巡
2. 青果・畜産相場の高騰
3. 節約志向の高まりによる点数減

（参考）2023年6月調査（5月実績）キーワードTOP3

1. 値上げによる一品単価上昇
2. 連休期間中の帰省が増加
3. 節約志向で家庭内食事需要が堅調

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

5月実績速報版 153社
 4月実績確報版 184社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp